

令和4年度 阿武町立阿武中学校 学校評価書 校長（原田 隆史）

1 学校教育目標
 教育目標…高い志をもち、つながりを大切にする阿武町っ子の育成
 中・長期目標… ○生徒・教職員・保護者・地域の方が誇りをもてる学校(阿武中PRIDE)
 ○生徒一人ひとりが自己実現をめざす学校(「阿武中で学んでよかった!」と胸を張れる)
 ○生徒の姿で教育の成果を見せる学校(子どもに力をつける)

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
【学校】 [よさ]小学校、保育園、高校が近接・隣接する充実した教育環境 [課題]地域連携教育による学校課題の解決、学校運営協議会の充実
【生徒】 [よさ]落ち着いた学校生活、素直で純朴な者が多い [課題]コミュニケーション能力(あいさつ)、学力向上、家庭学習(宿題)の充実、基本的な生活習慣の定着
【教師】 [よさ]与えられた職務に専念、誠実に役割を果たそうとする者が多い [課題]組織的な関わり、授業改善、業務改善への意識、ICT機器活用の充実
【保護者・地域】 [よさ]学校教育に関する理解と支援、教育的資源の提供 [課題]課題の共有、当事者意識のさらなる醸成と協働の気運の高まり

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
 ①確かな学力の育成(基礎基本の定着、学習に向かう意欲の醸成、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業実践)
 ②生徒の創意を生かした活動の推進(思考力・判断力・表現力を高めるとともに、学校づくりの主体者としての意識を醸成する活動づくり)
 ③ふるさとを愛する生徒の育成(系統性のある総合的な学習の時間の実践、コミュニケーション能力の育成、地域貢献ボランティア活動の実践)
 ④基本的な生活習慣の徹底(本校チャレンジ目標「美【場を清める】・礼【礼を尽くす】・時【時間を守り大切に】」の達成・体现)

4 自己評価					5 学校関係者評価		
領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	評価	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望	評価
学 校 運 営	チャレンジ目標	チャレンジ目標(美・礼・時)を意識した生活を徹底する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	2	【2. 9】チャレンジ目標 機会をとらえて生徒たちの意識化を図ったが、実践に向けた取組を生徒会でも計画するなどの工夫が必要だと感じられた。	・文化祭の3年生の取組がよかった。 ・生徒のチャレンジ目標取組への支援があるとよい。 ・異校種が隣接した環境を生かし、今後も連携した教育活動が進められたらよいと思う。 ・地域との連携は、学校行事や地域の行事、講師の派遣など、地域の方々の協力のもと行われているので、今後も続けていけたらよいと思う。 ・地域連携の動きが具体的に動き始めたと思う。 ・ボランティア活動は、積極的に多くの行事等に参加する生徒もいるが、最低限の参加という者もあり、底上げを図る必要がある。 ・教職員が手本を示し当たり前の事として学校全体の空気を変えるべきだと思う。掲示や達成度の数値化にあまり意味を感じない。 ・アンケートの記述に対して返答がないと、学校に対する当事者意識をすり減らされていく。 ・英語教育については、小中切れ目なくということ意識して連携されていると思う。	B
	CSの推進 家庭・地域との連携	家庭・地域と一体となった「開かれた学校」づくりをよりいっそう推進する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】地域連携① ふるさと学習、職場体験、職業講話、歯科指導、ヘルスサポートなど、学習場面で地域人材との出会いは確保されている。学校運営協議会の充実に向けた取組を進めていきたい。		
	地域貢献の推進	ボランティア活動や地域行事への積極的な参加、学校施設の利用を促進する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 3】地域連携② 地域行事の支援など、多くの生徒が積極的にボランティア活動に参加する姿が見受けられた。より多くの生徒の参加を継続するとともに、情報発信の充実も図りたい。		
	小中連携の推進	小学校と連携した教育実践を推進し、研修の成果を蓄積する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 0】小中連携 中学校教員の小学校での出前授業、サマースクールでの小学校教員の生徒支援など、双方向性の連携協働が進んでいる。協働研修の成果をさらに蓄積していきたい。		
学 習 心	学力向上	全教科で基礎基本の定着に取り組むとともに、学習に向かう意欲や姿勢を育てる。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】授業改善・学力向上・ICT活用・特別支援教育 ICTの活用は年を追って充実している。様々な場面で活用をさらに進めていくとともに、それが学力向上につながるよう、研修を重ねたい。授業改善は、今後とも継続的に実施する必要がある。	・タブレットについて課題はあるが、不要な際でもまずは活用してみるなどの前向きな運用が必要では。 ・学校運営協議会の中で授業を参観させていただいたが、ICT機器の活用が段階的に行われている様子が伝わってきた。中学校でどのように活用されているのか、異校種の教員にも参観の機会があるとよいと感じた。 ・ICTを活用した場面を見ることがなかったので、機会があれば授業など参観していきたい。 ・立志式等、未来に向かって生徒が進んでいる姿、それに向かわせるための学校の動きが感じられる。 ・受け身の授業ではなく、参加型の授業を。 ・ICTの活用については疑問もあり、自分の声でものが言えることも大切だと思う。 ・学びを楽しみと思えないことには、学習に向かう意欲は湧いてこない。 ・不登校の生徒について、学習フォローのためのICT活用はされているのだろうか。	B
	道徳教育の充実	多様な価値観に触れることができる魅力ある道徳授業を実践する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 0】道徳教育 昨年度の研究成果も生かしながら、生徒たちが自分事として考えを深める道徳授業づくりに取り組んだ。地域人材を活用した実践等についても継続していきたい。		
	学校行事・感動体験の充実	生徒の主体性を伸ばし、充実感・感動を味わえる行事や活動を充実させる。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 0】体験活動 小中合同運動会では、小中学生が協働して取り組めるようなプログラム内容を協力しながら工夫することができた。生徒自身が当事者意識をもって活動づくりを継続していきたい。		
環 境 安 全	生徒指導の充実	きめ細やかな生徒理解を基本とし、予防的・開発的な生徒指導を組織的に推進する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	2	【2. 9】生徒理解 職員朝礼や職員会議など、生徒情報について教職員間で十分に共有を図る機会を設けた。さらに定期教育相談等の機会も活用して、今後ともきめ細かい生徒理解に努めていきたいと考える。	・時期の過ぎたポスターなどがそのまま貼ってあるのが気になった。 ・花壇の整備等を通じた中高連携が今年度はできなかった。来年度は計画的に実施できるとよい。 ・環境整備については、生徒会の環境美化委員会が年間計画を立て、それに沿って地域・保護者ももっと協力できると思う。 ・毎日の目配りや心配りが大切。アンケートや教育相談は、あくまで待ちの姿勢だと思う。 ・5類以降のコロナ対策をどうするのか。 ・週1アンケートでどのような実態が見えてきたのだろうか。	B
	生徒の主体性の育成	主体性を育む学級・生徒会活動を推進する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】生徒会活動 生徒会自身に当事者意識をもてるような活動づくりをさらに継続する必要がある。生徒に任せた活動場面をより多く提供していきたいと考える。		
	環境整備の充実	校内の環境整備を計画的に実践する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 2】環境整備・学校安全・コロナ対応 感染症対策は引き続き万全の体制で実施できた。環境整備については、地域・保護者との連携をさらに計画的に進める必要を感じる。		
健 康 体 力	生徒のメンタルケア	SC(スクールカウンセラー)と連携した相談活動を充実させる。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】教育相談 週一アンケートの共有は継続的にできている。SCとの相談については、必要に応じて時間調整を図ることができた。ケース検討など、さらに活用する機会の充実を図ってきたい。	・生徒の情報共有と個々に応じたサポートを今後も継続していただきたい。 ・生徒数も減少するので、一人ひとりの活躍が大きい。個々のよいところを見出して引き出し、よりよい学校づくりにつなげてほしい。 ・スクールカウンセラーへの相談はどの程度の件数があるのだろうか、生徒が自主的に相談しているのだろうかなどが気になる。 ・我が家でリズムチェックやノーマディアチャレンジ等は形骸化している。 ・学校に来られないこのアンケートは取れない。 ・不登校者が減らないのはなぜだろうか。 ・部活動の指導をされる教員の負担軽減は図られているだろうか。	B
	生活習慣の改善	学校や家庭における規則正しい生活リズムを定着させる。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】学校保健 リズムチェックなどをとおして、よりよい生活習慣の定着を図る手だてを講じた。歯科指導など、小中連携した健康づくりも組織的に進んできた。		
	部活動の充実	目標や意欲をもち、生き生きと達成感をもてる部活動を推進する。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 0】部活動 技能の向上に加え、望ましい人間関係づくりや集団生活の向上に向けた適切な指導が継続されている。地域移行に向けた見直しは必要であるが、学校部活動のよさは継続するとよい。		
業 務 改 善	会議運営の効率化	会議時間の適正化を図る。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】業務改善 事前の起案や共有ドライブへの資料アップロードなど、ICTも活用した会議運営の効率化が図られるようになってきた。	・業務改善に対する教職員の意識も高まっており、今後も組織的に取り組んでいきたいと思う。 ・週1アンケートやリズムチェックなど、定期的に生徒理解をされていることについてもう少し発信されたいと思う。部活動の地域移行など、これから検討すべきことも多い。 ・時間外業務時間の削減に努められているが、業務量が多いことから、守られていないように思える。 ・学校からのお知らせを子どもが親に出さないこともあるので、省力化や行き違い防止等も含めて、紙媒体は廃止してはどうか。	B
	時間外業務時間の削減	職場環境の整備と校務分掌の平準化、これまでの取組の見直しを図る。	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 2】業務改善 学年部、分掌などの組織的な業務遂行が職員集団の中で意識されている。次年度への申し送り事項を電子データで残す取組も始められ、業務改善に向けて動きも見られる。さらに業務の適正化に向け、組織的に取り組むたいと考える。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)
 学校経営ビジョンを焦点化し、「めざす生徒像」として端的なキャッチフレーズで示したことで、目標とすべき姿を生徒と教職員で共有できた。目標の教室掲示や達成度の数値化に批判的な声も聞かれたが、目標に対する生徒の意識は確実に向上しており、今後の課題となるべき事柄も浮き彫りになってきた。
 今年度は全校体制での校内研修を進める上で阿武町全体が掲げ取り組んでいる「4つの力・心」(きづく・きめる・かかわる・やりぬく)を視点とした授業の見取りを丹念に継続するとともに町教委の指導主事にも毎回の研修に関わっていただくことで教科の見方・考え方を超えた授業検討が活性化し、授業改善にも大きくつながった。話し合い活動の充実、考える場の設定などに対する生徒の肯定的な意識が大きく向上しており、学力向上への手がかりをつかむことができた。
 地域連携教育については、ふるさと学習やキャリア教育を中心に、関係機関との連携、地域人材のゲストティーチャーとしての活用、体験場所の確保などを行った。また、校種間連携については、中学校教員・生徒の出前授業、小学校教員の中学生学力補充支援など、双方向性の取組を行った。生徒たちは、さらに地域の方との交流を深化させる必要性を感じていることから、今後とも計画的・系統的に各方面との連携を進めていく必要がある。ふるさと学習も見直しを経て2年が経過しているが、内容の形骸化も進んでいることから、総合的な学習の実施方法を検討し、子どもたちの主体性を育む内容として展開する必要性を痛感している。

7 次年度への改善策
 (1)学校経営ビジョンの明確化・焦点化、分かりやすい目標設定による重点取組事項の共通理解
 (2)校内研修の充実による学力向上、一人一台端末の効果的な活用の研究継続
 (3)校種間連携・地域連携の充実、学校・家庭・地域が相互に関わる活動の計画的実施
 (4)総合的な学習の改編・充実、生徒の主体性を育む教育活動の充実
 (5)保護者・地域住民等への情報発信の工夫